



～地域と共に未来を拓く～

浴風会病院 医療連携ニュース

№63

発行元：浴風会病院 医療連携室 〒168-8535東京都杉並区高井戸西1-12-1

TEL 03-3332-6511(代表) FAX 03-5941-5275



浴風会病院における神経内科診療について

浴風会病院 医長 小林正樹
東京医科歯科大学神経内科 非常勤講師・臨床准教授

神経内科は、脳・脊髄からなる中枢神経、末梢神経及びそれが支配する筋肉に関連した疾患をみる内科の一部門とされていますが、世界的には精神科や脳神経外科と同様に“Neurology”として独立した科とする国も多く、少し特殊性をもった科といえるかもしれません。疾患の範囲は、頭痛、脳卒中などのコモンな疾患から筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病などの神経難病や筋ジストロフィーまで多岐に渡ります。他科の先生方には、神経内科は神経難病をみているイメージが強く、“難病の診断だけで治療できない”といわれてしまうことも多いように思います。確かに、そのような認識は正しい部分もありますが、近年の神経科学研究のめざましい進歩に伴って、分子標的治療や遺伝子治療も現実のものになりつつあり、神経内科も“治療の時代”に入ってきているといわれています。例えば、一昔前には、脳梗塞は発症しても治療介入できず後遺症が残るだけの病気とされていましたが、血栓溶解療法の出現により臨床現場の対応が様変わりしています。また、私自身も大学での基礎研究に関わりがあり肌で感じていますが、20世紀後半から急速に進歩したDNAシーケンシング技術を背景に遺伝性疾患の遺伝子変異が次々に同定され、遺伝子組換え技術、遺伝子発現制御技術などの分子生物学的手法を用いた分子レベルの治療によって神経難病の根本治療を提供できる日がそれほど遠い未来ではないようにも感じられます。

このような分子生物学に基づいた医学の進歩は、疾患の根本治療へ向けてめざましい発展をしてきており、人類に大きな恩恵を与えることはいまでもありません。しかし、残念ながら現状において、目の前の多くの神経難病の患者さんを今治すことができないことも事実であり、また、医学が進歩し寿命を延ばせたとしても、すべての人に“人生の終末期”がなくなることはないでしょう。神経内科医は、急性期病院における短期間で“病気を診断・治療する”という役割だけではなく、有効な治療薬のない様々な神経難病の患者さんたちの病気の進行（慢性期）に寄り添い、人生の終末まで長期的に医療を提供する役割もあります。また、このような病気の慢性期の患者さんの診療には、医師以外の介護、看護スタッフなどあらゆる職種のコメディカルスタッフの役割もとても大きくなります。さまざまな疾患の背景から根本治療のない疾患の慢性期にどう医療対応すべきか、人生の終末に近づいた患者さんをどう看取っていくべきか、つまり、医師とすべてのコメディカルスタッフが連携・協力することによって慢性期医療をどう良質なものにしていくかが、急性期総合病院とは異なった慢性期医療を担う当病院にとって重要な社会的課題といえます。高齢社会の進行から当院の社会的使命が今後ますますその重要性を増していく中で、患者さんが疾患慢性期から終末期によりよい人生を送れるように、多職種協働で取り組んでいきたいと思っております。

NST委員会活動について

NST委員 友野一美

当院の栄養サポートチーム（NST）委員会は、平成22年より活動を始め今年で9年目を迎えました。委員長の医師をはじめ、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、言語聴覚士、薬剤師と多職種が集まり、1か月に1回定例会を開催しています。



昨年度は、高齢者中心の当院入院患者様の栄養評価に適した栄養アセスメントツールの選定と入院中の中心静脈栄養施用患者様の栄養状態の現状調査を行いました。

今年度は、経口・経腸栄養施用中の患者様の栄養管理を中心に活動しています。言語聴覚士による摂食・嚥下機能と食事介助に関する勉強会、看護師による安全な食事摂取のための姿勢の講習、薬剤師による簡易懸濁法の手順の確認や、管理栄養士による当院で食事に追加して出せる捕食品についての勉強会などを行いました。

当院NST委員会では、それぞれの職種が協力して患者様の栄養管理を行うことにより、栄養状態の改善や合併症の予防を図るために活動しています。

栄養管理室から～敬老弁当の紹介～

栄養管理室 加藤三紀子

平成30年9月14日暦よりも一足早く敬老弁当を昼食で提供させていただきました。

当院では普段から季節感を大切に、目で見て楽しく、食べて美味しく、安心して召し上がっていただけるお食事作りを心がけております。そして常食の方はもちろんの事、咀嚼や嚥下機能が低下してきている方にも楽しんで味わっていただけるように工夫をしております。

今年のミキサー食敬老弁当は「軍艦すし」を味わっていただきたいと、酢飯に海苔をまき、エビ・うに・鮭にガリを添えて提供しました。これらはすべてミキサーにかけて舌でつぶせる硬さにまとめ形成しています。ミキサー食の方は軍艦すしをみて笑顔があふれ、酢飯の味に驚かれ、ウニの風味に喜ばれ敬老弁当を楽しまれました。

ゼリー食の方には冷たいゼリーだけでなく、温かいゼリーも提供しています。温かいゼリーとしては、イチヨウと紅葉をあしらった重湯ゼリーとみたらしあんかけ豆腐、そして冷たいゼリーとしては高栄養ゼリー（コーヒー風味）と菊の形のバナナゼリー・麦茶ゼリーでした。素材・提供温度にあった凝固剤を使い分けて作成しています。

まずは一口、食べたいと思っていただけるようなお食事を提供できるようにメニューを考え、毎食心を込めて作っています。



常食



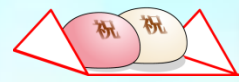
ミキサー食



ゼリー食



敬老会が開催されました



残暑の厳しさが残る9月16日（日）に、回復期リハビリ病棟において、「敬老会」を実施致しました。この敬老会は、富士見ヶ丘中学校、富士見ヶ丘小学校、高井戸第二小学校の児童達と当病棟の患者様のふれあいを行う場として、毎年恒例で開催されてきました。当日は高井戸第二小学校の児童による「タカニチア」のチアダンスと、富士見ヶ丘中学校吹奏楽部による生演奏、コラボレーションがありました。又、児童たちひとり一人が患者さまへの温かい思いを込めた手作りカードを直接手渡され、感激して泣き出し、児童と握手した手をいつまでも話したまらない光景も見られました。笑いあり、涙ありの楽しい敬老会となりました。

富士見ヶ丘小・中学校、そして高井戸第二小学校の児童の皆様、ありがとうございました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

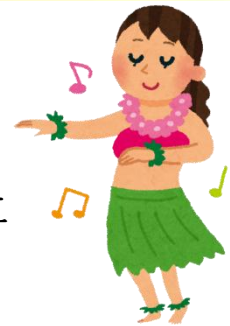


～富士見ヶ丘中学校からのメッセージ～

- ・第二南陽園でも、花壇の手入れをさせて頂いております。リハビリ頑張ってください。（校長先生）
- ・天気の良い日が続きますが、いつまでもお元気でいて下さい。（生徒会長）



フラダンスショーが開かれました



医療療養病棟でフラダンスショーが、去る9月29日（土）に行われました。

これは、患者様のご家族のフラダンスチームによるもので、当日は多くの参加者を得て、盛会裏に終了いたしました。



外来担当医表

平成30年10月

診療科		月	火	水	木	金	土
初診外来(内科)	午前	八田	泉本	伊藤	秋山	鈴木美紀	当番医
内科	午前	秋山★ 小出	伊藤院長★ 山岡 中川 渡邊★	八田★ 雨宮★ 小林★	吉田センター長★ 八田★ 坂本★ 内藤(認知症相談)	伊藤院長★ 市岡★ 館野 加藤	
	午後	吉田センター長★ 雨宮 (認知症相談)	青木		内藤(物忘れ外来)	加藤	
★…神経内科医							
神経内科	午前	吉田センター長	袖山				
循環器内科	午後		柴田		小出		
呼吸器内科	午前					中川	
代謝内科(糖尿病)	午後				福原		
精神科	午前	梶浦	古田 (認知症相談)	梶浦 (認知症相談)	古田	須貝	
	午後	古田 (認知症相談)	梶浦 須佐 須佐 (認知症相談)	須貝		須貝 (認知症相談・ もの忘れ外来)	
整形外科	午前	宮沢		宮沢		宮沢	
眼科	午前	酒井	酒井	酒井	酒井	酒井	
	午後	酒井 (検査)	酒井 (検査) (第2・第4のみ)	(手術)		酒井 (検査)	
歯科	午前	中野	中野		中野	中野	中野 (第1.3のみ)
	午後	中野	中野		中野	中野	

再診予約のある方：予約時間前に再来受付機へ診察券を通して下さい。
初診または再診予約のない方：午前十一時までに初診受付へ直接お越し下さい。

